第14回オンライン読書茶話会

企画：TKU Library
協力：大学生協「読書のいずみ」編集部
（リンク先案内版）

2022年11月19日（土曜日）
午後4時－午後5時30分　Zoom Meeting
進行役：高津秀之（西洋史）米山高生（経営史）

TKUオンライン読書茶話会

時間: 2022年11月19日 04:00 PM 大阪、札幌、東京

リンク先は以下の通りです。
https://us02web.zoom.us/j/87513531075?pwd=L0ZzYWdGS3d1ZzRkdEJxb2NLa3AxUT09

ミーティングID: 875 1353 1075
パスコード: 210205

読書茶話会のご案内

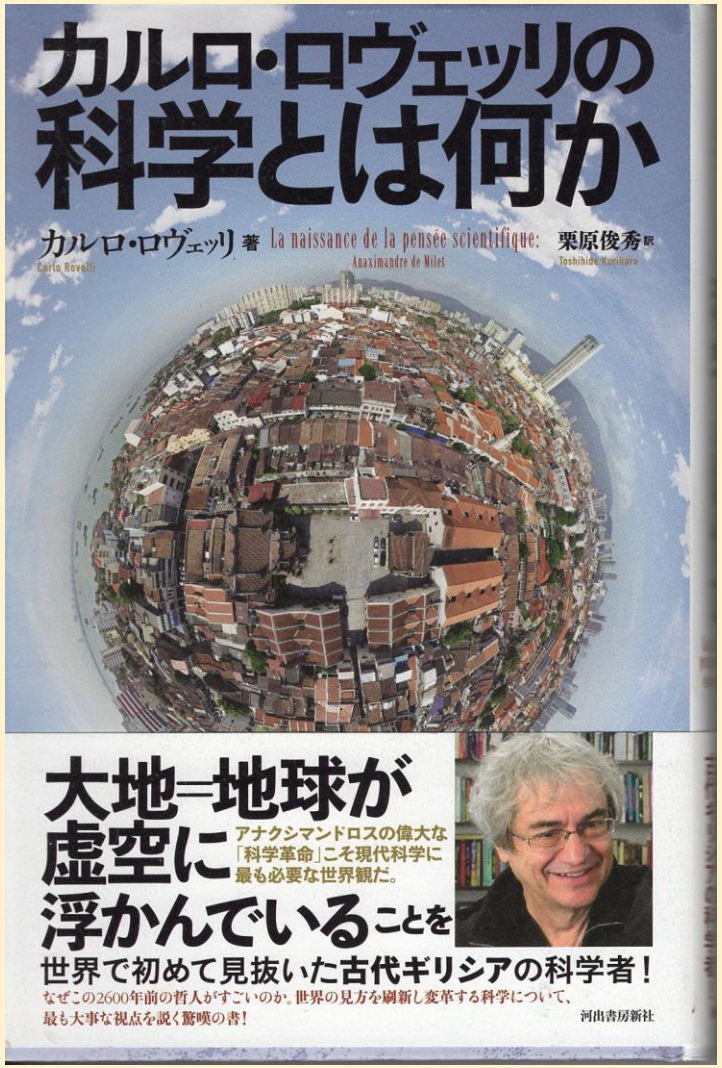
本日は、ブックトークをはじめに読後感想を後半です。

I. 季刊『**読書のいずみ**』（大学生協）に掲載されている書籍を選書し、それを読んで語り合う場。
   - ●**気軽な発言**を歓迎。
   - ●学習ゼミでないので、**結論がない発言でも大丈夫**。
   - ●**書籍を読んでいない方の出席も歓迎。**

II. 主催者による企画：ブックトークなど。
   - ●今回は、『ロヴェッリの科学とは何か』を翻訳された、イタリア文学の翻訳家である**栗原俊秀**さんをお招きして、科学について、また時間があれば、イタリア文学の翻訳についてお話しいただきます。（栗原さんについては、『読書のいずみ』172号、34－37頁を参照。）

読後感想のための選書は、『読書のいずみ』最新号

今回は、季刊『読書のいずみ』No.172からの自由に「選書」してください。
選書していない人も参加できます。



第Ⅰ部：ブックトーク

カルロ・ロヴェッリ著、栗原俊秀訳『カルロ・ロヴェッリの科学とは何か』河出書房新社。

平易なことばで、科学史の大きな流れを教えてくれる。私たち文系にとって、一度は読むべき本だと思います。米山

イタリア文学の翻訳者である栗原俊秀さんに語ってもらいます。栗原さんは、ロヴェッリの翻訳の他、数々のイタリア文学の翻訳紹介されています。

お問い合わせは、米山高生　yone@tku.ac.jp　まで。

栗原俊秀さんのインタビュー記事は、『読書のいずみ』No172, pp.32-37 をご覧ください。『読書のいずみ』は、図書館の「オンライン読書茶話会」のウォール展示、または生協書籍部で無料で配布しています。気軽にお持ち帰りください。

翻訳者に訊く！

世界像を描き直す美しき冒険
～カルロ・ロヴェッリと翻訳作品を語る～

カルロ・ロヴェッリ
〈栗原俊秀＝訳〉
「カルロ・ロヴェッリの科学とは何か」
河出書房新社　定価2,310円（税込）

栗原俊秀さん
（翻訳家）

インタビュアー・文
徳岡柚月

●略歴
栗原俊秀（くりはら・としひで）
1983年生まれ。翻訳家。
イタリア国立カラブリア大学文学部専門課程　近代文献学コース卒業、京都大学大学院人間・環境学研究科　博士課程　研究指導認定退学後、イタリア語作品を中心に翻訳活動を行っている。訳書に、C・ロヴェッリ『カルロ・ロヴェッリの科学とは何か』『すごい物理学講義』、A・スクラーティ『小説ムッソリーニ　世紀の落とし子』（河出書房新社）、J・ファンテ『ロサンゼルスへの道』（未知谷）、ゼロカルカーレ『コバニ・コーリング』など多数。C・アバーテ『偉大なる時のモザイク』（未知谷）で、第２回須賀敦子翻訳賞、イタリア文化財・文化活動省翻訳賞を受賞。

カルロ・ロヴェッリとは？

徳岡　栗原さんは『すごい物理学講義』、そして２月に刊行された『カルロ・ロヴェッリの科学とは何か』の翻訳を担当されていますが、栗原さん的「カルロ・ロヴェッリの魅力」について教えてください。

栗原　彼がユニークな物理学者として人気を集めているポイントでもあるんですけれど、科学や物理学の話をしつつ、文学、哲学といったいわゆる私たちが「文系」と呼んでいる学問についても非常に詳しいんです。もちろん専門的な知識があるわけではないですが、若い頃からこういう分野に興味を持って、「科学と詩の対話」みたいなことをずっと意識しながらやってきている人。そういう科学についての語り口というのが、なかなか日本の科学者にはない、非常にイタリア的なものを感じるんですよね。ちゃんと現在に至るまでの歴史の流れを強く意識しながら、現時点での達成について語るというような。そういうところが、ロヴェッリの面白いところだと思います。

徳岡　「科学と詩の対話」というワードがとても印象的だと感じました。

栗原　そうですね。イタリアには日本と比べてかなり色々な種類の高校があるんですが、大学進学を考えている人たちは「リチェーオ・クラシコ(Liceo classico)」あるいは「リチェーオ・シエンティフィカ(Liceo Scientifico)」という文系普通科高校、あるいは理系普通科高校に通うようなんです。ロヴェッリの場合は、文系普通科高校に通っているんですよ。元々の関心がそっちの方にあるんですよね、哲学とか。だから結局物理学を専門に学び始めてからも、若い時の――高校生あるいは大学に入ったばかりの時の――そちらの方面への情熱がずっと消えていなかったっていうことなのかなと。

徳岡　最近文系と理系の間の距離の隔たりが指摘されていますが、ロヴェッリは両方の要素が上手く噛み合わさっているのがすごいなと感じました。

34

第Ⅱ部：「いずみ」読後感想

- １１月１５日時点で、学生さんからの選書の連絡がありませんので、高津先生と私が二冊程度とりあげる予定です。

- 予定：ジョン・ファンテ著、栗原俊秀訳『満ちみてる生』未知谷、2016年。
- 角田光代『小説三面記事』文春文庫。

図書館まつりのお知らせ

- 12月15日（木）12時30分～14時、毎年恒例の図書館まつりをおこないます。
- 今年のテーマは、「散歩と茶話会」（「サ」で頭韻を踏んでいます。）
- 後半はリアル茶話会ということで、季刊『読書のいずみ』の魅力や読書マラソンの楽しさをアピールしたいと考えています。検討中ですが、部分的にハイブリッド実施も考えています。ご協力をお願いすることもあろうかと思いますがよろしくお願い申し上げます。